

地場農産物で安全・安心な食を目指す、商店街の「街の駅」

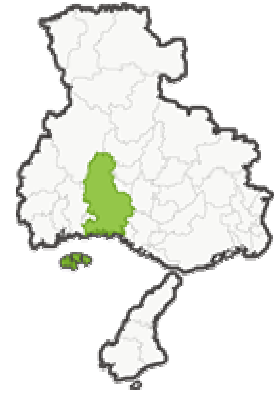
姫路市中心市街地の御幸通り商店街では、地域の活性化を目指す NPO 団体が空き店舗を活用して地場農産物や加工品を中心に販売する「たまちゃん街の駅」が運営されている。街の駅では店舗での商品販売のほか、生鮮食品店の撤退した地域で朝市を開催するなど、ただ地産の農産物を提供するだけでなく、地域の消費者の利便を向上させて地域の持続的な活性化へとつなげる工夫が多くされている。

兵庫県姫路市

総人口：536,285 (人)
世帯数：207,694 (世帯)
総面積：534.43 (km²)
人口密度：1003.5 (人/km²)
(平成22年2月1日現在)

姫路市御幸通り商店街

JR 姫路駅と姫路城を結ぶ大通りの1本東に平行している長さが約550mのアーケード商店街。
近年の郊外立地の大型店舗の増加により最盛時と比較すると多少の衰えはあるが、それでも多くの来街者が訪れる、姫路市にとって重要な商店街である。



背景ときっかけ

平成12年にまちづくり・人づくり・心づくりを目的としてボランティア団体として発足、平成14年に法人格を取得した NPO 姫路コンベンションサポートは、姫路市中心市街地の商店街の活性化のほか、青少年の健全育成を目的に活動。イベント実施や観光ボランティアガイド養成などの事業を通じて魅力ある街づくりに取り組んできた。

平成21年春の新型インフルエンザの猛威により、観光客が激減したことをきっかけに「安全・安心な食」への取組と「都市と農村、消費者と生産者をつなぐ拠点」になる場づくりを目的として、経済産業省の補助を得て、地産の野菜などを販売する「たまちゃん街の駅」を御幸通り商店街内の空き店舗にオープンさせた。「たま」は循環型社会を目指すことをイメージして名付けられたものである。

取組内容

「たまちゃん街の駅」は NPO 姫路コンベンションサポートの事務局がある情報発信拠点「電博堂」の向かいの空き店舗を借りて整備された、地域の農産物を中心に扱う店舗で、姫路近郊の生産者によってつくられる有機栽培や農薬を抑えた安全・安心な新鮮な野菜のほか、それらを利用した加工品、米などの播磨の農産物、地元でつくられている銘菓が販売されている。

生鮮食品は原則的に生産者からの委託販売の形をとっており、仲卸しをはさまず、毎朝生産者から新鮮な野菜が直接店舗に納入されている。店舗運営は20~30代の若者を中心に行う他、商品を納入する生産者にも20~30代の若い農家がいるため、若者の交流にも一役買っている。

名称：たまちゃん街の駅（平成21年11月開設）

所在地：兵庫県姫路市綿町90番地

面積：16坪

販売品：地元野菜（減農・無農薬・有機野菜）とその加工品、地元の銘菓、全国から取り寄せたこだわりの品、花木、米

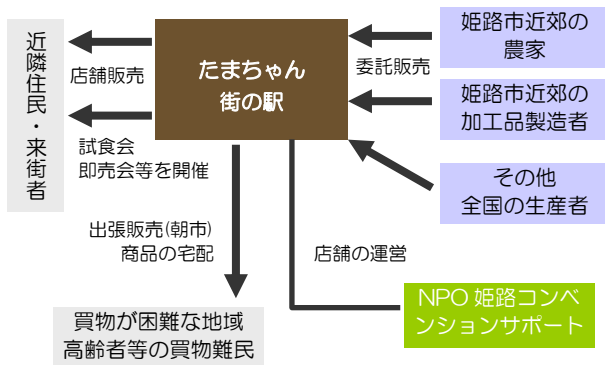
販売方法：原則生鮮品は生産者からの委託販売（手数料15%）、供給体制は店舗へ直接納品。

※一部買い取り品あり。

営業時間：午前9時から午後6時（定休日 毎週水曜日）

販売員：スタッフ5名

事業の仕組み



取組効果

- たまちゃん街の駅の場所は3年間空き店舗で、その北隣も1年間ほどは空き店舗だったが、11月に開店して以来、北隣の店にも入店者が決まり、空き店舗数が減り、商店街に活気が出てきた
- 毎週末のイベントを通じて、新たに扱う商品のマーケティングやPRを行うことで売れ筋や動向の把握ができています。

取組上の工夫

- 毎週末にイベントを開き、新しく販売したい商品の試食会や即売会をする。チラシを近隣マンションに配布しPRする。
- スタッフは緊急雇用対策事業で雇い入れをしている。1年間の契約だが、定期的に勉強会なども開催し、能力の向上に努めている。
- 金・土曜日には朝市を実施、近隣の場所出張販売を行っており、スーパーがなくなって買い物に不自由している地域に定着した。また高齢者には配達も実施している。
- 店で販売している野菜や加工品を入れた弁当を販売することで、弁当だけでなくその商品もPRできる。

今後の展望

- もっと加工品や名産品の取り扱いを増やし、観光客をも取り込める店を目指している。今年からは野菜についても農家に依存するのではなく、自身が生産者になって販売をする予定。ゆくゆくは、消費者もいっしょになって生産者になれる「農園クラブ」を創設したいと考えている。
- スーパーのない地域へ出張販売を増やす、商品の配達を行うなど、買い物で遠出できない人たちの利便を向上させていきたい。



御幸通り商店街



たまちゃん街の駅（外観）



たまちゃん街の駅（販売商品）



店頭でのイベントの様子